

SPAC 芸術総監督・宮城聡が手掛ける、「女性の自立」を描く傑作社会劇！！

SPAC 秋→春のシーズン 2022-2023 #4

『人形の家』

プレス関係各位

平素より、SPAC-静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

SPAC では、「秋→春のシーズン」と題し毎年 10 月から 3 月にかけて、古今東西の名作戯曲を、芸術総監督・宮城聡と国内外の注目の演出家たちによる現代演出で連続上演しています。25 周年を迎えた今年度のレギュラーシーズンでは、これまでに、『パール・ギュント』、SPAC 版『守銭奴 あるいは嘘の学校』、『リチャード二世』を上演し、盛況を博しています。

今シーズンの最後を飾るのは、SPAC 芸術総監督・宮城聡による新作、『人形の家』(作:ヘンリック・イブセン)です。

■今なお、センセーショナルな結末が人々を魅了、世界で初めて「女性の自立」を描いた傑作社会劇！！

『人形の家』は、「近代演劇の父」と言われるノルウェーの作家ヘンリック・イブセンが 1879 年に発表した戯曲です。世界で初めて「女性の自立」を文学で描いたと言われ、男性優位な当時の社会において、そのセンセーショナルな結末は激しい賛否の論争を巻き起こし、その後日本で起きた女性解放運動にも大きな影響を与えました。140 年経った今も国内外で絶えず上演され続け、宮城曰く「世界で最も有名な戯曲5本に入る」名作を、浜松出身でミュージカル出演や振付けでも活躍する bable を加えた SPAC 実力派俳優陣が送るストレートプレイ。どうぞご期待ください。

■舞台をヨーロッパから戦前の日本へ、“和装の”『人形の家』が現代社会に問う。

今回宮城は、大胆にその舞台設定を当時のヨーロッパから、昭和 10 年(1935 年)・戦前の日本に置き換え、衣裳は和装、小道具は日本家具でしつらえます。一見レトロな時代に見せながら、現代の日本においても「女性の立場」が根本的には戦前から変わらないのではないか、それはなぜなのか、と観客に問いかけます。

舞台セットは、宮城が演出したもう一つのイブセン作品『パール・ギュント』とも呼応させ、舞台面に 5.4 メートル四方(能舞台と同様の大きさ)の巨大なパズルを、背景には同じパズルを傾かせて配置。はめ込まれたピースには、“三種の神器”(洗濯機・冷蔵庫・テレビ)や自動車、ミシンなどの家庭用品が描かれています。これは、ヘルメルとノーラ、そして今を生きる私たちも、「幸せな家庭」に必要なものにむしろ縛られていることを象徴し、物語が進むにつれてパズルのピースが徐々に欠落していく仕掛けは、観客の固定観念を足元から揺さぶり、本質を問うものです。

◎あらすじ: 弁護士の夫ヘルメル、子どもたちと、何不自由なく幸せな生活を送るノーラ。しかし、かつて夫を助けるために秘密裏に行った借金が露呈。激情したヘルメルの発言により、ノーラは、自分が夫にとって都合のいい所有物であり、従順な「人形」に過ぎなかったと悟り、「一人の人間として生きる」決意をし、家族を捨てて家を去る…。



SPAC 2023 FEB.-MAR.

2023年
2月11日(土) 12時・19時
3月4日(土) 5時・11時・12時

静岡県芸術劇場 (グランシップ内)

SPAC
SPAC 秋→春のシーズン2022-2023 #4

人形の家 [新作]

演出:宮城聡/作:ヘンリック・イブセン/訳:毛利三彌

照明デザイン:大迫浩二/衣裳デザイン:駒井友美子/音響デザイン:澤田百希乃

出演・配役:たきいみき(ノーラ(ヘルメルの妻))、加藤幸夫(弁護士クログスタ)、

武石守正(ドクトル・ランク)、葉山陽代(リンデ夫人)、

bable(バイブル)(弁護士ヘルメル)、森山冬子(家事手伝い/ヘルメルのこども)

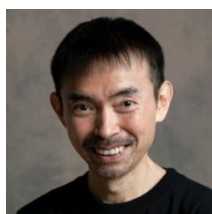
■公演日:

2月11日(土祝)、12日(日)、19日(日)

3月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)

各日 14:00 開演 上演時間:未定(120 分以内)

■会場:静岡県芸術劇場(グランシップ内)



©加藤孝

演出家プロフィール 宮城聡(みやぎ・さとし)

演出家。2007 年 SPAC 芸術総監督に就任。自作の上演とともに世界各地から現代社会を鋭く切り取る作品を紹介、また県内各地でのアウトリーチ活動にも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営を行う。代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『アンティゴネ』など。K-mix レギュラー番組「宮城聡の頭のなか」出演中。

【関連企画】

●アーティストトーク

終演後にトークを開催。参加無料／予約不要

2月11日(土祝)、12日(日)は、本作の演出を務める宮城聰が、静岡県内で活躍する女性経営者をゲストに迎えます。
司会:仲村悠希

▷ 2月11日(土祝)

株式会社山崎製作所 代表取締役、
静岡県女性経営者団体『A・NE・GO』代表
山崎かおり



大学卒業後、個人輸入雑貨店の自営、一般企業 OLを経て、1991年に先代の父が経営する精密板金加工業の山崎製作所に入社。2009年、代表取締役役に就任。「景気に左右されない経営の方向」を模索し、女性ならではの視点で経営改革に取り組む。また、「モノづくり職人の技術を認めてもらえる仕事がしたい」そんな募る想いから自社ブランド「三代目板金屋」を立ち上げ、商品開発も手掛け始める。

▷ 2月12日(日)

SHINKAI(深海魚直送便) 代表
青山沙織



大学卒業後、一般企業に勤務。ワーキングホリデーを利用して、オーストラリアにて1年間就労した経験もあり。2018年4月、沼津市地域おこし協力隊に就任。日本で唯一の深海魚担当の地域おこし協力隊として様々なイベントなどを企画・主催。2020年4月より、新型コロナウイルスによって、収入が減った漁師の増収を図るため、港より直接魚を買取り、未利用魚を活用した「深海魚直送便」を始める。

▷ 3月4日(土)

出演:宮城聰(SPAC 芸術総監督)、
『人形の家』出演俳優
司会:大岡淳(SPAC 文芸部)

●プレートーク

一般公演日の開演 25 分前より、2F カフェ・シンデレラにて。
舞台をよりおもしろく観劇できるポイントをご紹介します。

●ボックスステージレクチャー

終演後に SPAC 創作・技術部スタッフが舞台裏を解説。

▷2月19日(日)、3月5日(日)、11日(土)、12日(日)

所要時間:約 30 分 参加無料／予約不要

製作:SPAC-静岡県舞台芸術センター

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

●はじめてのイプセン講座

SPAC 文芸部の大岡淳が、ご観劇前にイプセン作品の魅力をご紹介します。観劇が初めてでない方もご参加いただけます。

▷ 2月11日(土祝)、3月4日(土) 12:30~13:30

参加無料／要予約

あざれあ/アイセル 21×SPAC 企画展示 『人形の家』から考える<女性と自由>

本公演にあわせ、静岡県男女共同参画センターあざれあと静岡市女性会館アイセル 21 のご協力のもと、観劇のヒントとなる本やマンガを展示します。

<あざれあ> 期間:2/1(水)~3/31(金)

* 開室時間:平日 9:00-18:00 / 土日祝 9:00-17:00

会場:静岡県男女共同参画センターあざれあ図書館
(静岡市駿河区馬淵1丁目17-1 2F)

<アイセル> 期間:2/7(火)~3/12(日)

* 開室時間:平日 9:00-19:00 / 土日祝 9:00-17:00

会場:静岡市女性会館アイセル 21(静岡市葵区東草深町3-18 1F)

チケット <好評販売中!>

●料金(税込/全席指定)

一般:4,200 円

ペア割引:3,700 円(2名様で1枚につき)

ゆうゆう割引:[満60歳以上]3,500 円

学生割引:[大学生・高校生]2,000 円

[高校生以下]1,000 円 *そのほか各種割引あり

チケットお取り扱い

SPAC チケットセンター

TEL:054-202-3399 (10:00~18:00, 休業日2/13、3/6を除く)

ウェブ予約 <https://spac.or.jp/ticket>

お問い合わせ SPAC-静岡県舞台芸術センター

TEL:054-203-5730 FAX:054-203-5732

E-mail: mail@spac.or.jp

公式サイト: <https://spac.or.jp>

中高生鑑賞事業公演「SPACeSHIP げきとも！」

SPAC では「劇場は世界を見る窓である」という理念のもと、平日には静岡県内の中学生・高校生を対象とした招待公演を行っています。本作の中高生鑑賞事業公演では、14校で約1,500人の中高生が来場予定です。一般の方がお入りいただける日程もございます。詳細は公式サイトにて。

*2月16日(木)~3月10日(金) 9公演